

埼玉県納税貯蓄組合総連合会 優秀賞

身をもって体験した税金のありがたみ

行田市立忍中学校

三年 小林 美輝

「ごめんね。今日から入院することになったの。」と母が言った。母は以前から体調が悪く、ずっと寝込んでいた。どんどん悪化していく母に父が受診をすすめた。

入院先の病院で母は原因が分からない「特定疾患」に分類されている難病であることが分かった。その病院で見たことも聞いたこともないような治療を受けていた。

約二ヶ月後に退院した。家に帰ってきた母が、何枚もの請求書と向き合っていた。何をやっているのかとのぞき込むと、何十万、何百万という数字が見られた。それは全て母の薬代や治療代であった。こんなにもたくさんのお金を払わなければいけないのかと思った。私は思い切って母に尋ねた。

「そのお金って全部払うの？」

「違うよ。この請求書を提出することで、全て払わなくても済むんだよ。」と教えてくれた。

払わなかった分のお金はどこから出されているのだろうか疑問に思ったので母に尋ねてみると、

「税金と加入している保険から払われているんだよ。」と言った。

そんな制度があることを初めて知った。税金というと、身近なものが消費税で嫌なイメージがあった。どうして百円の物に対して百八円払わなければいけないのだろうかと思っていた。でも、税金が無ければ母が元気になることもなかったし、私が生活を送っていたかも分からない。そんなことを考えると税金を納めてくれていた人への感謝と同時に税金に対して嫌なイメージを持つていた自分が恥ずかしくなった。税金とは国民が生活を送るためにはかせないものなんだと身をもって感じる事ができた。

令和元年十月一日からは消費税が十パーセントに引き上げとなる。「また消費税が上がるのか。」と思う人も多いだろう。だが、税金が無ければ学校で使う教科書もお金を出して買うことになる。また、中学生一人あたり年間で約百万円もお金が教育には必要となる。このお金も税金から払われている。もし税金が無ければ、年間百万円を払える人しか学校に行けなくなる。そうしたら、私が今こうして作文を書くこともないだろう。

このようなことから、私は税金は無くしてはならない存在なんだと感じた。母を助けてくれた税金に感謝したい。そして、税金を必要としている人のために、今度は私が税金で助けたいと思う。しっかり税を納めて、困っている人を一人でも多く助けられるような大人になりたい。